港湾振興便り

２０１６．４
第１０７号

＊：＊

目　　次

＊：＊

１　ポートエッセイ　　―地方救う？レストランバス
グルメ、体験、買い物満喫―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

２　トピック

●北海道新幹線開業でにぎわうみなとオアシス函館
（北海道開発局　港湾計画課）

●酒田港 外航クルーズ船誘致に向けシンポジウム開催
（酒田市商工観光部　商工港湾課）

●酒田港 平成 27 年コンテナ取扱貨物量 2 年連続で過去最高を更新
（酒田市商工観光部　商工港湾課）

●クルーズ客船「ぱしふぃっくびいなす」が近代製鉄発祥の地に
（釜石市産業振興部　港湾振興課）

●富山湾シンポジウムを開催しました
（北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所）

●下田港史上初！ クルーズ客船入港
（中部地方整備局　清水港湾事務所）

３　お知らせ

＊：＊

１　ポートエッセイ　　―地方救う？レストランバス

グルメ、体験、買い物満喫―

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長）　篠田　昭～

＊：＊

地方の悩みの一つに公共交通の弱さがある。ローカル鉄道は軒並み厳しい経営を迫られているし、バス交通も利用者の減少―路線の廃止・減便といった負の連鎖が止まらない。港湾と街の中心部を結ぶ公共交通の貧弱さが問題になっているところも多いのではないか。

２次交通の弱さは観光・誘客にも暗い影を落とす。名所やグルメスポット、買い物エリアがコンパクトに隣接している都市はそう多くない。マイカーが使えれば便利に移動できる地域でも、旅行者にとっては不便極まりない地域が全国にあふれている。

そんな地方にとって救世主になりうるバスが登場した。レストランバスである。ウィラーグループが日本で初めて導入したもので、１階が調理場、２階がレストランになっている。テーブルを挟んで対面式の椅子があり、２５人定員だ。バスの天井は透明で景色がパノラマ的に楽しめるし、天気のいい時は天井が開き、さらに快適空間となる。

ウィラーさんは、レストランバスの最初の運行先に新潟市を選んでくれた。４月末からまず３カ月ほど営業運行する予定で、土曜日は決まったコースを昼と夜運行し、日曜日は週替わりでコースを変える。平日は団体旅行や地域の観光イベントに活用する。

モデルコースは新潟市の中心部から日本海夕日ラインを走り、ワイン蔵や酒蔵、農家さん、足湯などを巡る。ワイン蔵などに停車し、利用者がワインの試飲や買い物を楽しんでいる間にバス１階で調理して順次提供するシステムだ。お客は買い込んだワインや日本酒と一緒に料理を楽しむ。良質な野菜や果物を生産している農家さんではイチゴ狩りや新鮮な野菜の試食もできる。

生産者とシェフのコラボレーションが売りで、農家さんが地域の食材や名物を紹介するナビゲーターになり、ミニ農業体験も可能だ。

先日、レストランバスに試乗させてもらった。視点が高く、まちが普段とは違う印象で映る。シェフやガイド役の農家さんからの薀蓄を聞きながら、いただく料理の味は格別で、利用者全員に一体感が生まれるのも不思議な感覚だった。

レストランバスの運行は一般社団法人「ピースキッチン新潟」が担う。観光の運動体として各地でDMOが設立されているが、新潟市では食文化を前面に出し、FCMO（Food Culture management/marketing Organization）と名乗っている。「フードカルチャーをマネジメントする運動体」のイメージだ。内閣府の担当は「全国でDMOづくりが行われているが、組織の枠組みづくりが先行し、何をやりたいのか、が明確でない。その点、新潟市は生産者とシェフ・料理人を結び付け、食文化を創造していくコンテンツが明確だ」との評価をいただいた。これからのDMOづくりの先行モデルといわれるように側面支援していきたい。

２次交通が不便だった地域が、レストランバスが走ることで、観光、グルメ、買い物、体験などが快適に味わえる地域に変身する。地方創生のモデルになりうるのではないか。お値段は意識的に高めに設定するというが、個性的な旅を楽しみたい方はもちろん、外国人にも大いにうけるのではないか。こんなレストランバスが全国各地を走る日がくることを期待したい。

＊：＊

２　トピック

＊：＊

●　北海道新幹線開業でにぎわうみなとオアシス函館

（北海道開発局　港湾計画課）

３月２６日（土）、待ちに待った北海道新幹線が開業しました。
この日の函館は“お祭りムード”一色！みなとオアシス函館の「函館朝市」や、みなとまちの情緒たっぷり「赤レンガ倉庫群」等にも多くの観光客が足を運び、みなとオアシスエリアは大盛り上がりでした。

ＧＷにみなさんも、みなとオアシス函館に遊びにきてみませんか。

函館駅前のイベントの様子

にぎわう函館朝市

●　酒田港　外航クルーズ船誘致に向けシンポジウム開催

（酒田市商工観光部　商工港湾課）

酒田市主催、山形県等が共催する「酒田港外航クルーズシンポジウム」が 3 月 21 日午後、酒田市内で開かれました。シンポジウムには約 200 人が出席し、クルーズ船の魅力を知るとともに外航クルーズ船の誘致実現に向けた機運が盛り上がりました。

主催者である酒田市の丸山至酒田市長が、このシンポジウムをきっかけに外航クルーズ船の寄港が実現するように期待する、共催者の吉村美栄子山形県知事が、県・市等で組織する「“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会」に新たに「外航クルーズ誘致部会」を設置し、積極的に誘致活動に取り組んでいくと意気込みを示しました。

来賓としてあいさつに立った江島潔国土交通大臣政務官は、酒田港のポテンシャルは高い。大型クルーズ船が接岸できる岸壁がある上、山形県は食べ物、自然、歴史も魅力的である。総力を挙げて誘致が実現するように、と述べました。

同様に来賓として出席した、クルーズ船観光振興議員連盟会長の西川公也衆議院議員、同顧問の岸宏一参議院議員、加藤鮎子衆議院議員、酒田港の振興に尽力する東方水上シルクロード貿易促進協議会の新田嘉一会長がそれぞれ祝辞を述べられました。

続いて、クルーズ船観光振興議員連盟幹事の大沼みずほ参議院議員が『クルーズ船を取り巻く昨今の情勢』、株式会社カーニバル・ジャパンの猪股富士雄プリンセス・クルーズ営業部長が『プリンセス・クルーズの魅力と寄港地に求めるもの』と題して、基調講演を行い、アジアでの経済成長に伴うクルーズ市場の急拡大する現状や酒田港が仙台圏を巻き込んだインバウンドの窓口になる可能性が

ある、などと講演されました。

パネルディスカッションには、猪股氏、株式会社高見屋旅館（山形市）の岡崎彌平治代表取締役社長、NPO 法人酒田港女みなと会議の佐藤香奈子理事、小野真哉山形県商工労働観光部観光経済交流局長の 4 人が、山形新聞社伊藤哲哉論説委員長の司会で意見を交わされ、岡崎社長からはクルーズ船誘致は山形県、酒田市の認知度が上がり、観光業界にはメリットが大きい、佐藤理事からは、観光客と市民が一緒に楽しむことを考え、趣味のつながりをもつことが言葉の壁を越え、再び訪れたいという動機づけとなる、との意見が出されました。小野局長は係船柱、防舷材の整備等の準備を進め、航行安全委員会については、平成 28 年度前半には結果を出したい、と述べられ、猪股氏は 2018 年の寄港地として大いに期待が持てる、と答えられました。

基調講演の様子

パネルディスカッションの様子

● **酒田港　平成 27 年コンテナ取扱貨物量 2 年連続で過去最高を更新**

（酒田市商工観光部　商工港湾課）

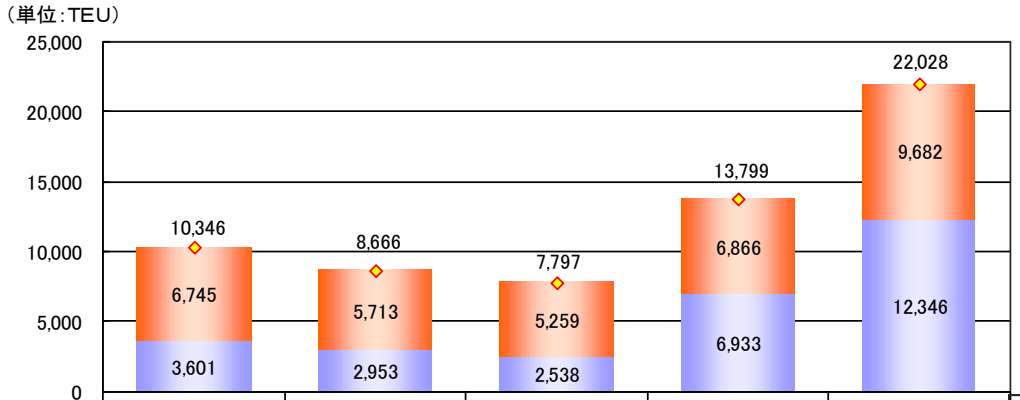
酒田港の国際定期コンテナ航路の貨物量は、輸出が 12,346TEU（前年比 178.1%）、輸入 9,682TEU（前年比 141.0%）、輸出入合計が 22,028TEU（前年比 159.6%）【すべて実入り実績】といずれも 2 年連続で過去最高を更新し、増加率は 2 年連続で全国一の港湾となりました。

コンテナクレーンやリーチスタッカーの増設など港湾機能の強化や国際定期コンテナ航路の拡充などにより利便性が向上するとともに、官民一体となったポートセールスの展開などが貨物量増加に結び付いたものと考えられます。

リーチスタッカー３台体制

コンテナ貨物が好調な酒田港

○過去５年間のコンテナ貨物量推移　【実入り】



	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	〈前年比 H27/H26〉
輸入	6,745	5,713	5,259	6,866	9,682	141.0%
輸出	3,601	2,953	2,538	6,933	12,346	178.1%
合計	10,346	8,666	7,797	13,799	22,028	159.6%

●　クルーズ客船「ぱしふぃっくびいなす」が近代製鉄発祥の地に

（釜石市産業振興部　港湾振興課）

平成 28 年 4 月 2 日（土）に客船「ぱしふぃっくびいなす」が釜石港に寄港しました。

今回の釜石港寄港は復興に焦点を当てた「三陸復興国立公園クルーズ」で、歓迎セレモニーを盛大に行い、復興途上ながらも活気のある釜石市の姿をアピールしました。

入港時には、今年、「橋野鉄鉱山」がユネスコ世界文化遺産登録 1 周年を迎えるという背景を踏まえ、地元郷土芸能である「橋野鹿踊り（ししおどり）」を披露。出港時には、東日本大震災から 5 年目という節目の年にあたることから、被災後、仮設校舎で学業・部活動に励む、釜石市立釜石東中学校吹奏楽部の生徒から演奏を披露し、次の航海の無事を祈りつつ、お見送りしました。

今回のクルーズでは、約 300 名の方々が乗船しており、オプショナルツアーとして、世界文化遺産「橋野鉄鉱山」や大島高任をはじめとした先任たちの偉業を残した資料館「鉄の歴史館」等の見学が行われたほか、三陸鉄道の乗車体験等が設けられ、釜石市の文化・被災地の現況に触れていただきました。

当日は肌寒い天候の中、約 600 名もの来場客に恵まれ、普段馴染みのないクルーズ船を体感していただきました。

今回の客船入港は、乗船客の方々、釜石市の方々双方に刺激になる良い機会であったと認識しており、今後の釜石復興の糧にしていきたいと思います。

郷土芸能「橋野鹿踊り」の披露

釜石東中学校吹奏楽部による演奏

釜石市長と船長の記念品交換

釜石港出港時のお見送り

● 富山湾シンポジウムを開催

（北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所）

平成 28 年 3 月 5 日(土)、美しい富山湾クラブ共催、関係自治体等の後援により「富山湾シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは、伏木富山港の位置する富山湾が平成 26 年 10 月、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」へ加盟したことを受け、富山湾の魅力や利活用の可能性について議論し、情報発信することを目的として開催し、およそ２５０名が聴講しました。

開会・来賓挨拶の後、共催の美しい富山湾クラブより、広く一般から募集して選定された「世界で最も美しい富山湾」ロゴマークの表彰式が行われ、続いて NPO 法人日本ビーチ文化振興協会理事長の朝日健太郎氏より、「美しい海岸・元気なビーチ」と題して基調講演をいただきました。

その後、各分野の有識者をパネリストに迎え、「富山湾。海・みなと・ビーチの可能性」と題したパネルディスカッションが行われ、環境、クルーズ、市民・女性目線等から活発な議論が交わされました。

日頃は港湾施設整備の面から港や海を捉えている我々と異なる視点や事例を再認識できたとともに、今後の富山県の港湾・海岸の整備を通じた、環境保全、景観や観光振興などに向け、参考となるご意見・ご発言を頂きました。

聴講された方々が、富山湾についてより理解を深め、考えるきっかけやヒントにしていただければ幸いです。

基調講演を行う朝日理事長

ロゴマーク表彰式

各分野の有識者によるパネルディスカッション

● **下田港史上初！　クルーズ客船入港**

（中部地方整備局　清水港湾事務所）

フランスの客船の「ル・ソレアル」は２０１３年就航した「ガストロノミックシップ」（食通の船）といわれるハイグレード客船。

３月２５日香港を出港し４月６日に大阪に着港する13日間で日本各地に寄港する「Japan’s traditions」のクルーズツアーの中で、４月４日に下田港に初入港しました。

乗客は、約２００人。客層はフランス人が主の欧米の紳士・淑女。

下田港内に停泊する　ル・ソレアル

当日は、低気圧の影響であいにくの悪天候でしたが、早朝7時に港内に入港し、沖合最大波高約２．６mの荒天の中、防波堤によって静穏性が保たれた港内で停泊し、搭載のテンダーボート※を利用して外ケ岡岸壁に乗客を移送しました。上陸した乗客は、伊豆市の「わさび田」・「浄蓮の滝」、「下田市内の歴史散策」を観光するオプショナルツアーで伊豆半島や下田周辺の名所巡りを楽しみました。

歓迎式典　　ル・ソレアル内

上陸の際には、下田太鼓の演奏やフランス国旗を振りながら多くの地元関係者が乗客を迎え、乗客も太鼓の演奏に興味を持って聴きながら写真を撮る姿が窺えました。

その後は、入港の歓迎に楠山下田市長、勝俣衆議院議員、森静岡県議会議員、土屋静岡県副知事、守屋中部地方整備局副局長はじめ多くの関係者が「ル・ソレアル」を訪問し、船長・機関長・ホテルマネージャーへ歓迎の意を伝える式典が開催されました。

船長からは、「今回、下田港への初入港が出来てよかった。天気は少し残念だが、この様に地元の皆さんが乗客やクルーを歓迎していただけることは大変うれしいこと。この様な歓迎が、今後の下田港への寄港に繋がることを願っている」、「今日の様な悪天候の中、防波堤のおかげで港内に停泊し、乗客をテンダーボートで上陸させることが出来た。防波堤がなければ、乗客を上陸させる

術がなく、その場合は、下田港への寄港を見送る可能性もあった」など、入港には、受入側の歓迎の熱意と防波堤など整った港の施設が不可欠との意見があった。

夕方６時、ル・ソレアルは、ツアーや市内散策を終えた乗客を乗せ、観光遊覧船「サスケハナ」や大漁旗を掲げた漁船に見送られながら次の目的地の新宮港（和歌山県）に向けて出港しました。

※【テンダーボート】とは、クルーズなどで使われる大型船に搭載された小さな補助船

上陸時の歓迎の様子　芸者踊り

上陸時の歓迎の様子　下田太鼓演奏

花みずき会によるお見送り行事の様子

ル・ソレアル船内での記念撮影

防波堤から見たル・ソレアル

テンダーボートの着船の様子

当日のスケジュール等

場所　：下田港内(停泊)、外ケ岡岸壁(テンダーボート上陸)

７：００	入港・港内停泊
８：００	テンダーボート上陸開始
８：００～	歓迎行事「下田太鼓演奏等」
８：３０～	オプショナルツアー「わさび田と浄蓮の滝(伊豆市)」
９：４０～	ル・ソレアル船内　歓迎式典
１２：３０～	オプショナルツアー「下田市内観光散策」
１７：００～	見送り行事「下田太鼓演奏･よさこい演舞等」
１７：３０～	海上見送り「漁船･観光遊覧船　黒船サスケハナ」

「ル・ソレアル」概要

●総トン数：10,700ｔ　●全長：142.10m
●全幅：18.00m　●喫水：4.80m
●初就航：2013 年　●乗客定員：264 人
●乗組員数：140 人　●客室数：132 室
●運航会社：ポナン

クルーズ名："Japan' s traditions"
香港発－大阪着　13日間

行程
＜3/25 香港→3/26 終日航海→3/27 基隆→3/28 石垣→3/29 那覇→3/30 終日航海→3/31 油津→4/1 高知→4/2 清水→4/3 東京→4/4 下田→4/5 新宮→4/6 大阪＞

＊：＊

３　お知らせ

＊：＊

◇　うまイカ・干しイカ・イカまつり

実施内容：　鼠ヶ関近海で獲れた新鮮な生イカの直売、漁師料理のイカ汁、イカ飯、イカの一夜干しなど旬のイカづくし。

※詳細はお問い合わせください。漁獲量により内容の変更あり。

開 催 日：平成28年6月18日（土）

開催場所：鶴岡市鼠ヶ関（鼠ヶ関港）

主催者名：あつみ観光協会　　（℡　0235－43－3547）

Webページ：http://www.atsumi-spa.or.jp/

＊：＊：＊：＊：＊:本メールマガジンに関するお問い合せやご意見、また情報の送り先:＊：＊：＊：＊

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002　港区愛宕１－３－４

TEL：03-5776-0630　　　　FAX：03-5776-0631

e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：：＊：＊：＊：＊